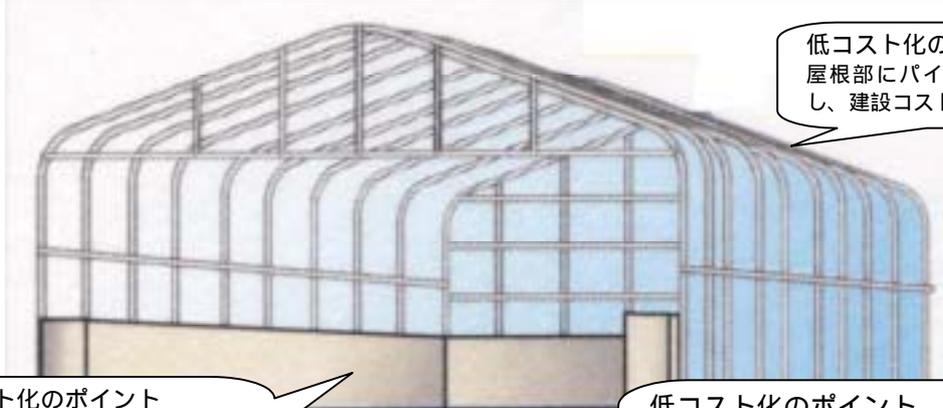


パイプハウス堆肥舎

構造

- ・ 間口4間（7.2m）以上のパイプハウスを利用します。園芸用パイプハウスでかまいませんが、積雪による倒壊の恐れがあるので、径の太いパイプの使用やパイプ間隔の短縮など耐雪性の向上を図ることが必要になります。
- ・ 床面はコンクリートの堆肥盤とし、はい汁の流出防止対策が必要です。
- ・ ショベルローダー等の切り返し用の機械が必要になります。



低コスト化のポイント
屋根部にパイプハウスを使用し、建設コストを抑えます。

低コスト化のポイント
擁壁の一部にブロックを使用し、建設コストをおさえます（ただし、塗料等による防水加工は必要）。

低コスト化のポイント
コンクリート施工部以外は、自家施工により建設コストを抑えます。

メリット

- ・ 建設費が比較的安価です。（木造堆肥舎の約半分の価格で建設可能）
- ・ 維持管理費が安価です。
- ・ 奥行きを短くすると、切返し作業が容易になります。
- ・ ビニール被覆なので透光性がよく、晴天時には堆肥がよく乾燥します。

デメリット

- ・ 積雪が多い地域では、ハウス倒壊を防ぐため、こまめな除雪が必要です。
- ・ 防風対策が必要です。

留意点

- ・ ダンプカーでふん尿を搬入する際や切り返しの際に、パイプやビニール等につけないように注意が必要です。
- ・ 施設周辺に対する臭気に留意し、防臭対策として施設の周りに樹木を植えるのもよいでしょう。
- ・ 床面はコンクリート等、地下浸透しない構造としオガコ等を用い、はい汁が堆肥舎外に流出しないようにします。
- ・ 施設は腐食しやすいので、防錆対策が必要になります。

設置コスト

建設費	約18,000円/㎡ (耐用年数は、堆肥盤20年、パイプ15年、ビニールフィルム3年とする。)
処理ふん尿1m ³ 当たり建設費	10,170円/m ³
減価償却額	1,040円/㎡・年
堆肥盤	600円/㎡・年
パイプ	400円/㎡・年
ビニール	40円/㎡・年

県内、建設事例からの一般的な価格を掲載してあります。使用部材等により建設費は変わります。

堆肥舎必要面積

畜種	飼養頭数	必要面積(㎡)
乳用牛	搾乳牛20頭、育成牛4頭	185
	搾乳牛30頭、育成牛6頭	281
肉用牛	肥育牛40頭、	104
	肥育牛80頭、	207
豚	肥育豚1,000頭	303
	肥育豚1,500頭	450

必要面積は、堆積高2mとし堆肥化に要する日数(134日)で試算しました。なお、家畜飼養方法、ふん尿処理方法により面積は変わります。また、134日を越えて保管する場合は、別途保管施設が必要になります。